

HOPES

ホープス セカンド
2nd

新しい挑戦を始めています

鈴木 秀範さん（上飯樋）



「おいしい野菜をつくること」を生きがいとして、農業をやつてきた鈴木さん。避難の間も「飯館でもう一度、おいしい野菜をつくりたい」と心に考えていました。「今までのように、有機肥料を活用してつくりたい」。

鈴木さんが挑戦を始めたのは、有機質肥料の養液を使ったミニトマトの水耕栽培でした。「インターネット」で、

昨年度から上飯樋行政区長。震災前は水稲や野菜を生産し、農業委員も長く務めました。現在は村が国の事業により整備したハウスで新技術を用いたミニトマトの栽培に挑戦しています。



甘さにこだわったおいしいミニトマトがなっています。左奥が養液用のタンクです。今後は、技術を高めながら、収量を増やしていこうと考えています。

三重県の農研機構が取り組んでいるこの栽培技術を知りました。水耕栽培でも有機肥料が使える」。

現地を訪れて栽培方法を学び、研究会の一員となった鈴木さん。プランターで試験を行っていました。昨年ハウスが完成し、今年から、本格的な栽培と出荷を始めました。「まだまだ試験的で、勉強を重ねています。養液での栽培をして、改めて『土』の力を感じたり、植物の成長について学んだりしています」。

今後、経験を集めて、「要所をしつかり覚えて管理したい」と思います」と鈴木さん。さらにはこの技術でリーフレタスの栽培にも挑戦しようと考えています。「若い人を雇って技術を学んでもらえたらとも考えています。戻った人とはもちろん、村の外でがんばっている人とのつながりも大切に、これからの地域づくりをしていきたいですね」。

〈編集後記〉

● 猛暑、酷暑、暑い夏でした。外で作業をしている皆さんを見る度、「暑中、すごいな」と尊敬する日々でした。そんなある日、役場の前庭で二羽のチョウチョが木陰でひとやすみ。その木は、前日に自分が植樹したものでした。少し疲れた時にホッと休むことができる場所、そんな人になれたらと。(木幡)

● 山津見神社でお会いたした詩人の和合亮一さんが(詳しくは5ページを)「この地で生きていく人間として、草や木や風や空ともう一度親しい気持ちを持つて話したい」「ここで本気でやっていこうという大人達がいる。子ども達に手渡しで伝えたい」と語っていました。言葉の力に圧倒されながら、広報紙もそんな思いでつくっていただけたらと、胸が熱くなったのでした。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。